

授 業 科 目 の 概 要

科 目 名	内 容 ※授業内容は変更になる場合があります。
文学	日本の近現代文学はいかなる内実を持ち、そこにいかなる価値を見出せるのか。「文学」では、主として明治以降の詩歌、小説、童話など具体的な作品を概観しながら、文学の面白さやその価値にふれる。その際、作品個々にアプローチする方法を紹介し、学生自身が文学を主体的に読む姿勢を養う。 また、映画やマンガなども教材として取り上げ、文学が周辺分野といかに関わっているのかも確かめる。それらによって、文学を分析するための観点を具体的に教授する。
脳科学と心	”見えてないものが見える”、”聞こえないはずの音が聞こえる”、”手で見る”、”鼻で味わう”、といった感覚の不思議さやヒトの認知・運動のメカニズムを知ることで人間の「心」の理解と脳科学が果たす役割について最新の脳科学の知見を交えて学修する。さらに脳に関係する病気(脳血管障害、てんかん、パーキンソン病、認知症)とその研究知見を神経科学的手法とともに紹介する。 また神経神話(脳に関する迷信)問題について、課題発見解決型学習(PBL)を通じて、巷に氾濫する誤った脳科学情報にきちんと対処できる知識を修得する。 講義が終わる頃に「脳科学」という言い方そのものに違和感を感じるようになることがこの科目のねらいでもあります。 教養科目として体験活動も多く交えながらすすめていくので、「興味はあるけど難しそう」と思っている学生さんにこそ受講してほしい科目です。
基礎インドネシア語	インドネシア語の初学者を対象とし、インドネシア語の基礎を身に付けることを目標とする。 教科書に基づいて段階的に文法を学習しながら、同時に基礎となる単語を修得していく。インドネシア語でコミュニケーションがとれるようになることを目指し、発音練習や会話練習もあわせて行なう。 また、語学に加えて、インドネシアの文化や生活習慣に関する知識も身につける。
学校図書館論	教師が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項について理解することを目標とする。 学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館の発展と課題、教育行政と学校図書館、学校図書館の経営(人、施設、資料、予算、評価等)、司書教諭の役割と校内の協力体制と研修、学校図書館メディアの選択と管理、提供、学校図書館活動、図書館の相互協力とネットワーク等について解説する。
情報機器の操作 I	情報機器の操作(パソコン操作含む)に慣れ、マルチメディア教材の活用(基礎)を理解し、保育と教育の現場で必要な基本的機器の操作技術や活用法を習得する科目です。機器の使い方、Webの利用やワープロソフトや表計算ソフトの基本的な操作などを学びます。
保育教育文献購読	保育・教育に関する文献の講読を通して、4年次の卒業研究での研究活動に不可欠な文献講読の基礎的なスキルを身につけることを目指す。 具体的には、文献の検索・収集および選択、文献の内容理解と要約、文献講読に基づく発表資料の作成、討論の仕方について学習する。
教職論	教員免許取得に必要な「教職の意義等に関する科目」に対応する科目である。 (1) 教職の意義や教師の身分、服務、研修などの教職制度を知り、教職として生徒・児童・幼児を指導・支援するための教員の役割や職務内容を理解する。 (2) 教師として家庭や地域と協働する視点を持ち、今日的な教育課題に対して自分なりの考えを持つ。
発達心理学	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について説明する。 ・また、発達障害を始めとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難を理解し、対応していくために必要な知識や支援方法について説明する。
教育心理学	本授業では、教育現場に限らない幅広い教育活動での活用が期待される心理的知見について紹介する。 具体的には、学習や記憶のメカニズム、動機づけに関する学習および認知心理学、学級内での人間関係やリーダーシップ、集団の特性や学級経営に関する社会心理学、パーソナリティや知性、社会性を含む発達心理学などに関連する内容を扱う。そして、授業を通して獲得した知見から、教育現場での活用方法について考え、教育心理学の理解を深める。

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
教育課程論	<p>小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。</p> <p>教職の基礎となる教育課程の基本的な考え方や編成の原理を理解し、小学校・幼稚園・保育所で編成される教育課程・保育課程や実際の指導計画を踏まえ、教育課程や指導計画の編成・作成方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>また記録の取り方、子どもの評価や保育者自身の自己評価の方法について学び、保育実践の質向上のプロセスを学ぶ。</p>
保育原理	<p>保育の基礎・基本を学ぶ入門科目として、保育に必要な基本理念や考え方、方法を学ぶ。</p> <p>特に、保育の本質の理解と保育の内容・方法などの基本的視点を習得するとともに、子ども・家庭・地域をとりまく現状や保育者に求められる保育の現代的課題の理解を目指す。</p>
初等算数科教育法	<p>小学校算数科の内容について、目標、内容、方法、評価の4つの観点から考察する。</p> <p>そのため、我が国の算数教育の史的変遷及び諸外国の算数・数学教育の動向を基に「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の各領域に関する算数科の内容を理解するとともに、効果的な算数科授業実践について考察・検討する。</p> <p>また、本授業は、教材及び学習指導案の作成等、より学校現場の実践に即した演習を多く取り入れ展開する。</p>
道徳の理論と指導法	<p>道徳の本質や歴史、道徳性の発達段階、を具体的に考え、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。さらに小学校学習指導要領にしたがい小学校道徳科の目標や内容に関する理解を深める。また、小学校道徳科における指導計画や指導方法、授業設計の方法や特徴を理解し、それらを踏まえた授業計画を構想する。そして、小学生が抱える問題を踏まえたうえで、学習評価や模擬授業の原則や方法を理解し、振り返りを通じた継続的な授業改善の必要性を理解する。</p>
特別活動の指導法	<p>前半は、特別活動の目標、内容、カリキュラム上の位置づけ、他の領域や各教科との関連を理解し、4領域の特質をおさえる。</p> <p>後半は、教育課程全体における特別活動の指導を考え、具体的な事例を検討する。評価方法、集団活動の意義、合意や議論の重要性を学ぶ。また、家庭・地域住民、関係機関との連携を考察し、組織的に対応する知識を身につける。</p>
教育相談の基礎と方法	<p>教育相談とは、カウンセリングの考えや技法を活用した教師による教育活動である。本授業では、教育活動や教育現場に関連する心理的知見を幅広く紹介する。</p> <p>具体的には、学校におけるいじめや不登校などの問題行動についての理解と対応、主な発達障害の理解と対応および特別支援教育の在り方について、およびカウンセリングの基礎、保護者支援のあり方について学習する。そして、教育現場で実践される様々な教育活動の意味や背景を理解する。</p>
社会的養護Ⅱ	<p>社会的養護の実際は、児童福祉施設に勤務する職員や里親が提供する具体的な援助方法に支えられている。</p> <p>本科目では、愛着(アタッチメント)、子どもとのコミュニケーション、暴力の防止などをキーワードとしながら、社会的養護の現場における児童の安心・安全の確保を重要な視点とする。そして、その視点に立ったうえで、社会的養護を実践する上で必要とされるケアワーク、ソーシャルワークの知識・技術について学び、その理解と認識を深めることを目的とする。また、児童福祉施設職員または里親からの話を聞く機会を設けることにより、学びを深める。</p>
子ども家庭支援の心理学	<p>まずは、乳児期から老年期にかけての心身の発達と発達課題を理解する。その上で、生涯発達の観点を踏まえて「家庭・家族の機能」、「親子関係・家族関係」、「子育ての経験と親としての育ち」などをテーマとして子どもと親、家族・家庭のあり方について理解する。その後、特別に配慮を要する家庭を含め、多様な家庭についての理解を深めつつ、成育環境と子どもの心の健康の問題の関係について考える。</p>
子どもの保健	<p>現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について講義する。</p> <p>保育専門職として、子どもの健康と評価方法を理解し、様々な疾患や障害、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について知識を深めていく。そのために、成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能を学習しながら、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を踏まえ、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について解説する。</p>
子育て支援	<p>保育現場における相談支援を展開できるよう、まず、子育て支援を必要とする子どもと保護者のニーズを多面的に理解するとともに、保護者との援助関係を築くための方法を学ぶ。</p> <p>そのうえで、連絡帳等を活用した状況・状態の把握や行動分析、家族システムズアプローチといった援助技術を具体的な支援場面と結び付けて学ぶ。</p>

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
初等算数科授業研究	初等算数科教育法の学修に基づき、小学校算数科の授業設計及び実践に関する知識（授業内容の教材化、指導方法の開発等）を理解し、実践する力を育成することを目的とする。授業では、小学校算数の指導目標の設定、教材開発、指導方法等を検討・実践する過程を通じて、授業設計力及び授業実践力の向上を目指す。また、演習では、学習指導案の作成、模擬授業実践をとおして実践的指導力の向上を目指す。
基礎ドイツ語	ドイツ語の発音と基本文法の習得を行う。四技能すべては目指さず、主に読める（音読も含む）ようになることを主目的とする。発音と基本文法が身につければ、「話す・聞く・書く」の3技能への応用が利き、またさらなる勉強にも繋げられる。 また、ドイツ語は、英語と同じゲルマン語派の西ゲルマン語群に属しており、英語と非常に近い関係にあり、かつ古い形態を残している言語である。そのため、英語学習において疑問に思っていたことがドイツ語の学習をとおして発見できることも期待している。
日本の歴史（文化史）	天変地異を文化史の側面から考察し、江戸時代の人々が我が身に降りかかった天変地異をどのように理解したのか、そしてどのように対応したのかを検証する。天変地異を切り口として、過去もまたひとつの「異文化」であることを理解すること、ならびにわたしたちの文化と社会を相対的に捉える視点を獲得することが授業の目的である。授業は、毎回ひとつないし関連する複数の天変地異を取り上げ、当時の人々の記録を読み解きながら進めていく。
対照文法	日本語に形式的には現れないが、日本語に内在するカテゴリーを、外国語との比較対照をとおして可視化しながら学ぶことを目的とする。自然言語は、外見上多様であるが、人間の認知的な部分が反映されている場合が多く、このような部分を意識化し、日本語に形式的に現れない文法についても学ぶ。 しかし、日本語の文法を理解していないと、結局、何も理解できないままになるので、前半部分では日本語の文法理解に力を入れ、その後、外国語を導入していくことにする。
日本文学概A	日本の古典文学のうち、上代から中世までを対象として、その時代の代表的作品の考察を行う。 作品は、神話・和歌・物語・日記・随筆、それらを典拠としつつ新たな解釈を加えた伝統芸能を扱う。古典文学の分析方法、古代的な発想・慣習・文化について理解を深めたい。また文学者の人生についても焦点を当て、当時の文化や歴史的背景をふまえて文学を理解する力を養う。
英語学概論B	英語がどのようなしくみを持ち、どのような規則によって成立しているのか、またどのようにして運用されているのかを、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の面から概観し、言語を分析的に捉える視点を身につけ、英語への理解を深める。
英文法Ⅰ	これまでの英語学習で蓄積された文法知識を体系的に整理しながらさらに英語学的に深め、ことばの運用を背後で支える文法についての知識を確かなものにするを目標とする。授業では、例文が示す様々な言語現象に対して「なぜ」を問い、その背後にある英語の意味上・統語上の規則性を探って考察し、文法分析の基本的な考え方や視点を身に付ける。文法項目を前篇と後編に分けてそれぞれを「英文法Ⅰ」と「英文法Ⅱ」で扱うので、全体を網羅するためにも、Ⅰ、Ⅱともに履修することが望ましい。
英語プレゼンテーション演習Ⅰ	プレゼンテーションを通して、「リスニング」「リーディング」「スピーキング」「ライティング」の英語4技能を総合的に向上させることを目標とする。同時に、英語を使って口頭で説明し、相手を説得するプレゼンテーション能力を向上させることを目指す。授業では、各自が決めたテーマについて情報収集して原稿を書き、パワーポイントを使ってスピーチを発表する。テーマは具体的には、世界や社会問題などに関するものとする。プレゼンテーションの準備段階では、個人指導の時間をとり、スピーチ内容の添削や発音などの指導を行うことで、英語4技能を修得する。
メディア英語Ⅰ	メディア英語の特徴（見出しの文法、構文、語彙、構成など）を押さえながら、社会・文化・政治経済・情報・教育・科学医学・環境など様々な分野にわたるニュース記事を読んでいく。英語で情報収集する力を身につけながら、現代社会が直面している様々な課題への関心を高め、理解を深める。また、ニュース記事に出てきた語彙や表現を身につけるための演習も行い、語彙力と表現力を高める。

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
神話と伝説	<p>日本古典文学のうち、神話と伝説について取り上げる。 前半は『古事記』の出雲神話について、『日本書紀』と比較を行いその独自性を考える。また、上代語や神話独特の表現、地理や古代史をふまえて読解していく。 後半では、神話との連続性をもつ伝説を取り上げる。島根県内の伝説について、話型論、歴史、習俗、古語をふまえた考察を行い、伝説が伝承される意味について考えたい。</p>
観光と地域	<p>観光のことを学問していくための入門科目です。 具体的には、観光に関するニュースや議論の場でよく使われる用語の語意をおさえつつ、人間や社会にとっての観光の意義、地域と観光とのつながりの在りようについて知見を増し、理解を深めます。</p>
観光文化論	<p>文化と観光は、相互に関わり深いものです。また、観光というものの自体が、人々が織りなしている文化だともいえます。 この科目で受講生は、観光と文化との関係性を学習の切り口にして、それらの言葉が指し示す範囲や両者の相互的な関係の在り方について学びを深めます。</p>
教育相談	<p>○教育現場で直面するであろう諸問題に関しての基礎知識を身に付けることに加えて、教育相談について受講生が自ら考えられるだけの力を養いたい。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ [到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における教育相談の意義と課題を理解している ・生徒のシグナルに気付くことの重要性を理解している ・カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している ・関係諸機関との連携の意義と必要性を理解している